

大学スポーツ振興関東地区検討会の発足について

日本における近代スポーツの多くは、明治時代に旧制高校や旧制大学で教鞭を執っていた外国人教師によってもたらされ、学生によって愛好され発展してきた。その後の現代的スポーツの多くも学生の自主的な活動として取り組まれてきた。そのようなスポーツが中学校・高等学校の運動部やスポーツ少年団、実業団、プロスポーツへと広まり、国民の多くがスポーツに親しむようになっている。

学生のスポーツ活動について、大学当局は学生の自主性に任せていたが、競技の高度化に伴い、コーチングスタッフの配置や学生寮の整備、スポーツ推薦入試、奨学金など大学の支援が強化されている。そして、大学教育の質保証の観点から、運動部学生の学修支援や就職支援の取り組みも進められてきた。しかし、運動部は競技連盟や同窓会とのつながりが強く、1つの大学では解決が困難な問題がある。

国は成長戦略の一つとしてスポーツ立国を掲げており、第2期スポーツ基本計画の中間報告案（2016.12.6）には施策目標として、「我が国の大学が持つスポーツ資源を人材輩出、経済活性化、地域貢献等に十分活用するとともに、大学スポーツ振興に向けた国内体制の構築を目指す。」と記されている。そして、その具体的な施策としてスポーツ局の設置や資金調達力の向上、デュアルキャリア支援、地域貢献、日本版 NCAA の創設などがあげられている。このように国が大学スポーツ振興に取り組むことは歓迎するが、私たち大学スポーツ関係者もこれまで蓄積してきた経験をもとに、自らの問題として連携して取り組むべく本検討会を発足させる。関東地区の多くの大学に呼びかけ、運動部の「民主的で公明正大な組織運営」や「科学的・人道的コーチングや支援」、「運動部学生への学修支援やキャリア支援、リーダーシップ養成」などを実現する。

2017年1月7日

発起人（所属大学名の50音順）

井上直子（青山学院大学）
小林 至（江戸川大学）
植田史生（慶應義塾大学）
中川 昭（筑波大学）
森 正明（中央大学）
小林勝法（文教大学）
平野裕一（法政大学）
柳澤敏勝（明治大学）
沼澤秀雄（立教大学）
土屋 純（早稲田大学）